

拠出金名：インド洋まぐろ類保存国際委員会拠出金

国際機関等名	インド洋まぐろ類保存国際委員会 (英文名称・略称) Indian Ocean Tuna Commission (IOTC)					
種 別	国連(事務局)		国連(基金・計画)		国連専門機関	その他
所轄官庁担当局課名	農林水産省水産庁国際課					
最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率						
	金 額				拠出率(%) (注1)	ODA率(%)
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2	レ ー ト		
平成17年度	26,643	249		1\$ = 107円	(2005年) 100	100
平成16年度	27,390	249		1\$ = 110円	(2004年) 100	100
平成15年度	9,958	82		1\$ = 122円	(2003年) 30.6	100
拠出上位5ヶ国						
	国 名	金額(千ドル)	率(%)	国際機関等の財政 (2005年度決算)(注2)		
1位	日本	249	100	当該年度の収入 1,322,544ドル		
2位				当該年度の支出 1,351,509ドル		
3位				次年度への繰越 -28,965ドル		
4位				会計検査機関名		
5位				UN Panel of External Auditors		
上記の率及び順位は2004-2005年のもの				(現在の構成員の出身国: インド)		
当該機関に対する我が国としての評価(当該国際機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)						
IOTCは、インド洋における高度回遊性魚類(まぐろ、かつお類)の資源管理を目的とした地域漁業機関である。本海域では、我が国漁船によりまぐろ類が年間約4万トン水揚げされている。近年、EU等のまき網によるまぐろ類の漁獲が急増し、資源の減少が懸念されていたが、2005年の年次会合において、メバチの漁獲規制の導入が決定されるなど、IOTCの果たす役割は重要となっていると評価。						
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価						
IOTCは新しい機関であり、加盟国の多くは途上国であるため、まぐろ類の資源管理に関する機能強化が大きな課題となっている。我が国等が拠出金を提供することにより、科学調査を実施することで機能強化が図られ、より適切な保存管理措置を定めるための有益な科学データが得られる。						
邦人職員数 うち幹部以上	0人 うち 0人	当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体に しめる率	0人 0%			
邦人職員が占めている幹部ポスト						
ポストの名称		職 員 氏 名		備 考		
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画						
未定						

(注1) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年(2003年～2005年)。

(注2) IOTC全体の収支額で代用。